

# 青森県産材の種類と特性

青森県内で生産されている主な樹種を紹介します。  
豊富な選択肢があるため、その用途や目的に応じた“適材適所”を実現します。



## 01 ヒバ | 檜葉 HIBA

青森県はヒバの一大産地。「青森ヒバ」は日本三大美林の一つに数えられます。清々しい香りを持ち、耐久性が高いため、腐朽やシロアリの被害を受けやすい土台部分や水回りへの使用に適しています。強度も高く、柱材としても用いられます。見た目が白く美しいため、和室などの内装材にも使われます。

- 用途/構造材(柱、束、土台)、内装材、板材など
- 科/ヒノキ科ヒノキ亜科 ●比重/0.45



## 03 スギ | 杉 SUGI

青森県内全域に幅広く分布しているスギは、その多くが戦後に植樹され、資源として利用期を迎えています。耐久性に優れており、湿度の高い日本の気候に適しています。加工しやすいため構造材全般に使われます。色合いや木目が美しく肌触りがよいため、内装材にも用いられます。

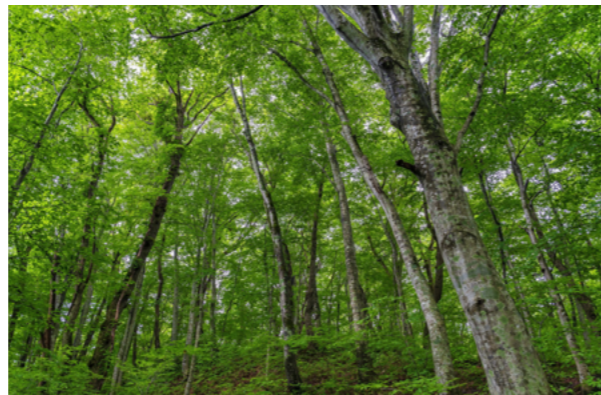
- 用途/構造材(柱、梁、桁)、内装材、板材など
- 科/ヒノキ科スギ亜科 ●比重/0.38



## 02 アカマツ | 赤松 AKAMATSU

青森県の県南地域等に多く生育し、「南部アカマツ」とも呼ばれています。耐久性はあまり高くはありませんが、曲げ強度や曲げヤング係数が高いため、梁などの横架材への利用にとっても適しているほか、その重厚な材質は床板や敷居などの内装材にも適しています。油分を多く含んだ、艶やかな木肌が魅力です。

- 用途/構造材(梁、桁、垂木、母屋)、内装材など
- 科/マツ科 ●比重/0.53



## 04 ブナ | 樺 BUNA

県内全域に分布する身近な木材の一つ。中でも白神山地の原生林や奥入瀬渓流にある日本一の巨木「森の神」はよく知られた存在です。水分を多く含むため加工が難しいものの、家具や木製のおもちゃのほか、楽器の材料などに活用されています。

- 用途/家具、楽器など
- 科/ブナ科 ●比重/0.63



## 05 ミズナラ | 水楠 MIZUNARA

八甲田や岩木山の周辺に見られます。かつては薪として利用されており、青森の人々の生活には身近な木でした。その特徴的な木目を生かし、家具などに加工されるほか、ウイスキーを熟成させる樽にも使われます。

- 用途/家具、床材など
- 科/ブナ科 ●比重/0.67



## 07 クリ | 栗 KURI

硬くて強い材質。耐久性や耐湿性がとても高いため、古くから建物の土台に重用されてきました。縄文時代の文化を今に伝える三内丸山遺跡からは、クリの木で作られた大きな建造物の跡が発掘されており、大昔から建材として大きな役割を果たしていたことがうかがえます。

- 用途/建築材(土台、装飾材)家具など
- 科/ブナ科 ●比重/0.55



## 06 トチ | 栃 TOCHI

十和田湖付近などの山沿いの地域に見られます。また、階上町には「茨島のトチ」という県の天然記念物に指定されている巨木があり、推定樹齢は600～800年とされています。軽くて軟かく加工しやすい一方で、乾燥すると狂いが出やすいため、建材ではなく家具や化粧用単板に使われます。

- 用途/家具、化粧用単板など
- 科/ムクロジ科 ●比重/0.53



## 08 サクラ | 桜(ヤマザクラ) SAKURA

桜の名所である弘前城や世界一長い桜並木「岩木山オオヤマザクラネックレスロード」など、青森県でもなじみ深い桜。そのなめらかな木目が美しく、フローリング材として人気があるほか、耐久性が高く加工しやすいため装飾材として使われたり、家具や彫刻などに用いられます。

- 用途/建築材(床材、装飾材)、家具など
- 科/バラ科 ●比重/0.60

### 県産材と主要な外材の樹種別性質

区分	樹種	心材の耐久性	強度(N/mm <sup>2</sup> )			曲げヤング係数(kN/mm <sup>2</sup> )	用途
			曲げ	縦圧縮	せん断		
県産材	スギ	中	65	35	6.0	7.5	建築材(柱、板) 合板・その他木製品全般
外材	ホワイトウッド (スプルース)	極小	68	38	7.4	9.2	
県産材	ヒバ	大	75	40	7.5	9.0	建築材(柱、板、土台) 合板・その他木製品全般
県外産材	ヒノキ	大	75	40	7.5	9.0	
県産材	アカマツ	小	90	45	9.5	11.5	建築材 (横架材等強度を必要とする部材)
外材	ベイマツ	中	85	50	7.8	13.4	

森林総合研究所監修「木材工業ハンドブック(改訂4版)」より